

研究者氏名：伊藤 諭

調査・活動テーマ：認知症の方やご家族が安心して暮らせる住まいや場所づくり、多世代交流の場づくり、終の住み家について

調査・活動の目的

超高齢化社会に突入している現在、認知症を抱える方が多くなっていきます。認知症の方や共に生活する家族は現実として大変なおもいをして暮らしています。今後は地域全体で関わりを持つことが必要とされている課題の1つです。そこで日本各地で革新的な住まいづくり、場所づくり、活動を行っている、団体、法人、施設から学び、提案していくことで、学生の成長、市民の意識改革がおこり東海市が認知症にやさしいまちになることを目的とします。

調査や活動の取組内容および達成状況・成果内容

今後、必要とされる認知症のある方が安心してくらす場所の4つの形態別に業界のトップランナーの取り組みを視察、インタビューで調査してまいりました。

1. 小規模多機能型居宅介護事業所 あおいけあ(神奈川県藤沢市)
 - ・人間関係、信頼関係の構築、マニュアルがない
 - ・一人ひとりの強み(やれること)に働きかける
 - ・おじいちゃん、おばあちゃんを地域で活躍
 - ・地域に無理に働きかけることはせず、地域が自然と来やすい環境づくり
 - ・要介護度を下げ、次世代につけを残さない介護
2. サービス付き高齢者住宅 銀木犀浦安(千葉県浦安市)
 - ・人間関係、信頼関係の構築
 - ・玄関やリビングの鍵はしない
 - ・オシャレで今からでも住みたくなるデザイン
 - ・最新のテクノロジーで認知症への意識改革
 - ・超人気な駄菓子屋さん
 - ・看取りまでおこなう住まい

3. 特別養護老人ホーム 美里ヒルズ(三重県津市)
 - ・施設ではなく、くらしの場としての環境づくり
 - ・起きる時間や食事をする時間が自由
 - ・外から見てわからないこだわりのトイレ介助
 - ・積極的に開放している地域交流スペース
 - ・地域にとけ込むために自ら地域活動に参加
4. 若年性認知症サポートセンター きずなや(奈良県奈良市)
 - ・みんなが楽しくすごせる居場所づくり
 - ・みんなが活躍できる場所づくり
 - ・地域のお困りごとを解決することで認知症の方の活躍の場作り
 - ・農業と福祉のコラボレーション

■共通点

- ・今までどおりいられる場所である[施設ではなく、くらす場所、生活の場所]
- ・どんな人でもいたくなる場所・人が集まる場所である[楽しい、おもしろい、オシャレ、かっこいい、信頼関係がある]
- ・誰でも活躍できる場所がある[認知症があっても、障害があってもその方の強みを活かす]

優れた効果・成果があがった点

- ・視察先の取り組みを研究することで今後の活動への指針をいただいた。
- ・学生にも研究発表をしてもらうことでプレゼンの経験となった。
- ・学生と共に研究活動をすることで双方に学びがありました。
- ・学生に視察先を生で体感してもらうことで今後の学生生活の肥やしになったこと、視察先の方とのつながりを作ることができました。

委嘱期間終了後の今後の展望

- ・特別養護老人ホームの地域交流スペースの利用状況、活用事例の調査を実施していきます。
- ・地域交流スペースでの交流イベントの企画と提案をしていきます。
- ・学生にも加わってもらい認知症の啓発イベントを開催します。
- ・学生の学習、研究、活動の一助とするため視察先との交流を行います。